# 画像ソリューション事業

## 担当役員メッセージ

執行役
画像ソリューション事業管掌
**吉村　裕介**

当社のDNAであるお客様の“みたい”という想いに応え続けるため、当社のコア技術を起点とした“画像データ×AI”によって価値を提供する５つの事業（ヘルスケア、画像IoTソリューション、映像ソリューション、QOLソリューション、FORXAI（フォーサイ））を「画像ソリューション事業」として統合しました。これまでも長期ビジョン「Imaging to the People」のもと、「FORXAI」と名付けた共通基盤技術を活かした事業を展開してきましたが、事業と技術が一体となることで、より強力に事業を推進できると考えています。

当事業のお客様の業種は、医療・介護、製造業、プラント、社会インフラなど多岐にわたりますが、「医療・介護」「セーフティ&セキュリティー」「製造」といった当社の強みが活きる領域にフォーカスし、お客様に寄り添ったソリューションを構築・展開していきます。

また、ハードウェアとAIを掛け合わせることで競争優位性を確立し、生み出されるデータの蓄積・解析によって顧客価値を向上させるビジネスモデルを進化させていきます。このようなモデルは当社のみでは範囲が限定されるため、多種多様なパートナーとの共創を通じて価値を高め、社会課題解決につなげていきます。

私も、当社が150年間培ってきたものへの誇りと、新たな要素を積極的に取り込む姿勢を持ち、当社の成長と社会の未来に最大限貢献すべく事業をリードしていきます。

## 画像ソリューション事業の中長期成長戦略

### 2023年度の振り返り

2023年度は、X線動態解析などのコニカミノルタ独自のハードウェアにAIを掛け合わせた成長領域を本格軌道に乗せるべく事業を推進し、売上が大きく伸長しました。また、各事業で蓄積したデータを活用したサービスが拡大し続け、付加価値の向上とビジネスモデル進化の道筋が見えてきた１年でした。

一方、ヘルスケア事業では投資抑制による日米病院市場の低迷や、画像IoTソリューション事業ではカメラ単体のコモディティ化による競争激化など、厳しい環境に晒されました。

このような環境下で、FORXAIの事業領域や開発テーマの優先度を見直し、コニカミノルタの強みを活かせる領域に資源を集中させ、効率的に高付加価値AI・ソリューションを市場に継続投入することで、利益を生み出せる事業構造への変革を進めました。

### 画像ソリューション事業戦略

これまで各事業が「医療」「セーフティ &セキュリティー」「プラネタリウム」「介護」の領域で各々ビジネスを展開してきました。今後は、これらの領域において共通のイメージング技術を横断的に活用し、新たな成長機会を創出します。加えて、FORXAIを有する当事業は、全社のAI適用、データ活用、ノウハウ蓄積を加速し、事業を超えた全社の付加価値向上にも貢献します。

また、ハードウェアの強みに加え、「検査・診断・人行動解析」を専門とする高度なAIの開発を推進し、画像・言語・音声などの複合データを融合して大規模言語モデルを活用した「マルチモーダルAI」へと進化させます。そして、ハードウェアと、ネットワークやサーバー /クラウド、アプリを統合する「システム化」と、データやアプリサービスを組み合わせた「重ね売り」によって付加価値を高め、顧客関係と蓄積データを活かした高収益なビジネスモデルへの転換を加速します。

さらに2024年度は、生産性向上とコスト構造の見直しを継続して実施し、安定した収益基盤の確立を目指します。

### 各領域における方向性

「医療」領域では、X線動態解析や超音波診断装置などの画像診断システムや、ICTサービスやAIによる診療支援サービスなどの医療ITソリューションによって「簡便で高度な医療」を実現し、海外でのスケールアップと国内医療DXを加速します。「介護」領域では、介護のプロセスをデータでサポートすることで、介護人材の負担を軽減し、ケア品質を向上させます。

「セーフティ&セキュリティー」領域では、高耐久、サーマル技術、エッジAI処理を強みとするネットワークカメラを中心に、新製品の開発とソリューションメニューの拡充を進めます。さらに、製造業向けには労働安全や品質向上（検査）、作業効率化、プラント業界向けにはガス監視・保全DXといった形で、業種ごとのワークフローに沿って顧客価値を高め、統合ソリューションとしてグローバルで事業を拡大します。

**イメージング技術と注力領域**

# 画像ソリューション事業

## ヘルスケア

### 市場環境認識

**機会**

- 人材不足を背景に、医療の高度化・効率化に向けた画像/AI/IT技術を活用した医療DXニーズが増加
- 先進国を中心とした少子高齢化や医療費の増大を背景に、早期診断、低侵襲医療ニーズが増加
- アジアなど新興国の急速な経済発展、人口増加、長寿命化により、医療ニーズが拡大し、デジタル医療市場が伸長

**リスク**

- エネルギー、人件費、金利高騰を背景にした医療機関の設備投資抑制
- 不安定な国際情勢と地政学リスクに起因するサプライチェーンの乱れ

**市場成長率（2023-2025年）**

| | |
|---|---|
| 一般X線診断装置 | +5% |
| 超音波診断装置 | +4% |

※当社推定

### 戦略と進捗

当事業は、X線フィルムから続く90年の歴史で培ったブランド・顧客基盤と、画像・AI技術や臨床開発、IoTに関わる高度な技術・専門人財の強みを活かし、早期診断、医療費抑制、QOL向上に貢献する製品・サービスを提供しています。

X線画像診断分野では、世界で先駆けて提供しているX線動態解析システムを中心に、グローバルで付加価値の高いX線システムの販売拡大を目指します。超音波診断装置は、強みである高画質、穿刺強調処理などの補助機能を活かし、整形外科、産科に加えて麻酔・透析などの領域を強化します。

医療ITソリューションは、国内約2万件の診療所とつながる医療ICTサービスプラットフォーム「infomity（インフォミティ）」を軸に、診療所のDX化支援サービス販売を拡大します。

X線システムなどのモダリティと、AIによる画像診断支援を組み合わせた高付加価値診療ソリューションを拡大するとともに、PACS（医療用画像保管・転送システム）のASEAN地域への展開も強化し、グローバルでのデジタル事業の売上を伸ばします。加えて、各領域において強みを持つグローバルパートナー企業との戦略的協業を推進します。

**戦略的KPI（2022年度比）**

| | 2023年度実績 | 2025年度目標 |
|---|---|---|
| DR一体型X線システムと動態解析の売上高伸長率 | +1% | +40% |
| アジア事業の売上高伸長率 | −20% | +55% |
| 医療ITサービスの売上高伸長率 | +7% | +45% |

## 画像IoTソリューション他

### 市場環境認識

**機会**

- 製造現場や重要セキュリティー管理施設などにおける安定稼働や監視の効率化のためのデータ活用サービスの需要増加
- 新技術開発による代替品への切り替え
- 気候変動対策の規制強化

**リスク**

- 景気後退にともなう顧客の設備投資抑制

**市場成長率（2023-2025年）**

| | |
|---|---|
| ネットワークカメラ | +11% |

※当社推定

### 戦略と進捗

当事業は、画像入力デバイスからの情報とセンサーデータを統合して、高度なAI処理を行う画像IoT技術を強みとしています。画像IoTの力で現場のDXを加速させるキードライバー FORXAIの構成要素であるIoTプラットフォーム、デバイス、AIを組み合わせることにより、食品製造業や倉庫・物流をはじめとした技術やチャネルに強みを持つパートナーと共に、新たなソリューションを創出しています。同時に、幅広い顧客の現場に入り込むことで現場の課題を解決し、社会の安全・安心に貢献しています。

グループ会社のMOBOTIX AG社（ドイツ）が有するネットワークカメラは、高耐久、サーマル技術、エッジAI処理などを強みとし、FORXAIと連携することで、さまざまな業種の現場で異常や予兆をいち早く検知・解析して、重大事故の未然防止にも貢献しています。同カメラは、欧米の情報機器事業の販売チャネルや、2023年度に買収したForce Security社（米国）による販売が伸長しています。

また、米国においてメタン排出規制強化への対応が石油ガス事業者に求められるなか、ガス漏えい検査システムは、高度な光学技術と画像処理技術を活用し、メタンガスなどの漏えいの“みえる化”に貢献し、規制や業界基準などを形成しながら市場を創出しています。

なお、当事業は、方向転換事業と位置づけており、2024年度にソリューションプロバイダーへの転換と展開国の絞り込みを行い、戦略的KPIも見直して、早期に利益を創出できる事業への転換を目指します。

**戦略的KPI（2022年度比）**

| | 2023年度実績 | 2025年度目標 |
|---|---|---|
| 画像AIソフトウェア売上高伸長率 | +51% | +100% |

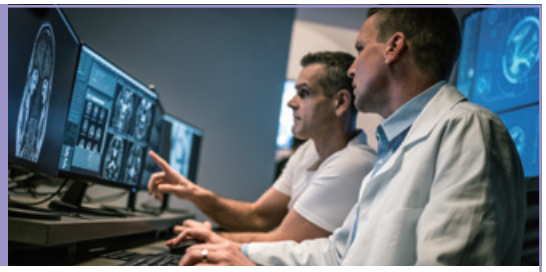
## 顧客との価値共創事例４

ヘルスケア

# 世界初のデジタルX線動態撮影を、X線診断のグローバルスタンダードへ

関連するマテリアリティ

- 働きがい向上および企業活性化
- 健康で質の高い生活の実現
- 社会における安全・安心確保



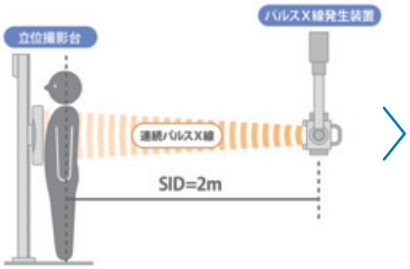
### 臓器の動きを"みえる化"するデジタルX線動態撮影で患者の負担を軽減し、医療の最適化に貢献

当社は、単純X線撮影によって臓器の“動き”を観察できる画期的な技術を世界に先駆けて商品化し、「デジタルX線動態撮影装置システム(DDR:Dynamic Digital Radiography)」を2018年に発売しました。従来、臓器の動きに起因する換気・血流などの機能情報の取得には、造影CT検査やPET検査が必要でした。しかし、これらの検査には、多くのX線被ばくや造影剤による副作用のリスクがともなうため、患者負担が大きいことが欠点でした。これに対して、当社のDDRは造影剤を必要とせず、低被ばくの検査で各臓器の動きや血流情報などの機能情報が取得できる可能性が研究により示唆されています。そのため、DDRの利用拡大によって、適切な検査選択や患者の身体的・経済的な負担軽減に寄与し、医療全体の最適化に貢献できると考えています。また、2022年に発売したX線動画像が取得できる回診車(AeroDR TX m01)により、集中治療室などベッドサイドでのDDR画像の取得が可能となり、活用シーンはさらに広がっています。

### キーオピニオンリーダー（KOL)とともに、DDRの価値を世界中に届ける

DDRはコニカミノルタが先駆けて発売した製品であるため、まだ検査方法や診断方法が確立されておらず、診療への利用が難しい現状があります。この課題解決に向けて、「①医療機関との臨床研究による価値共創」と「②画像診断のための手引書作成」による認知普及に取り組んでいます。①については、現在までに80編を超える学術論文が発行され、DDRの認知拡大に大きく貢献しています。②については画像診断領域・呼吸器領域の４名のKOLを監修に迎え、検査方法や画像解釈を示した手引書を作成し、すでに活用が広がっています。

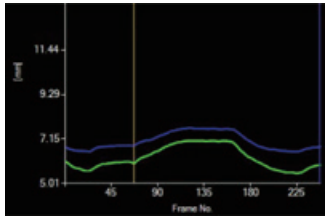
現在、DDRは日本、米国、アジア、欧州の300施設以上で肺循環領域、呼吸器外科領域、整形領域を中心に臨床利用され、普及が進んでいます。今後、より広く製品の価値を届けられるよう、臨床利用を加速させるとともに、さらに強固なエビデンスをベースとした検査・読影基準の確立を進めます。




動きを“みえる化”

オリジナル
動画:https://x.gd/Wnpfg

動きを定量化




動きにともなう変化を可視化

DM-MODE
横隔膜などの動きを追跡
動画:https://x.gd/6h4Z6

PL-MODE
呼吸による肺野内組織の伸縮度合いを表現
動画:https://x.gd/q2a3j

### Voice

ヘルスケア事業本部
メディカルイメージング
開発センター
臨床開発グループ
**角森 昭教**

#### DDRによる検査・診断を世の中の“当たり前”にしていきたい

DDRを開発した当初は、医師ですら初めて見る動画像でまったく知見がないため、臨床上の価値を定義し、広めることから必要でした。まずは「DDRを“当たり前”の検査にしたい」という想いを関連領域のKOLに伝えて、共感を得ました。その後、粘り強く議論し、ともに悩み、技術を育てながら臨床価値を共創してきました。KOLには「患者様に最適な医療を届けたい」という強い想いがあり、議論を深めるにつれ、私たちもDDRによって医療を変え、社会貢献につながることが確信に変わりました。今後も、強みである価値を具現化できるイメージング技術をもとに、KOLとともに世界の医療の変革に取り組んでいきます。